

1. はじめに  
原稿は、A4サイズ横書き25字×47行×2段組、余白は上25mm、下20mm、左22mm、右22mmに指定して作成する。フォントの大きさは9ポイント、色は黒字、句読点はカンマ「，」と句点「。」を使用すること。

2. 原稿の書式について  
**各章の上段は1行あける**

## 2.1 題目・著者名・要旨・キーワード

### (1) 論文・報告の種別と題目

論文・報告の種別を第1ページ1行目に左寄せで記入し、その後1文字あけて題目を記載する。題目が1行に収まらない場合は、2行目の左から4文字目から続きを書き始めること。

### (2) 要旨およびキーワード

要旨とキーワードは1段組みとし、見出しの「要旨：」、「キーワード：」のみMSゴシックで記載する。このとき、左右両端を2文字ずつあける。

## 2.2 章・節・項の見出しについて

各章の見出しの上側は、1行あける。章・節の見出しは左端から、項の見出しは1文字あけてから書き出す。

「章・節・項」の見出しのフォントは、MSゴシックとし、大きさは9ポイントとすること。

**各章の上段は1行あける**

## 3. 数式・単位・図表について

### 3.1 数式 **各節・項の上段は詰める**

極力簡潔にまとめ、式は3文字空けてから書き始める。式番号は(1), (2), (3)とし、式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は、式(1), 式(2)とする。表記例を以下の式(1)に示す。

**書式は2段組・25字・47行、フォントの大きさは9ptとする**

\*1 城北大学 工学部土木工学科准教授 工博 (正会員)

\*2 城北大学 工学部土木工学科 (学生会員)

\*3 南北コンサルタント(株) 第一設計部

$$y = a \cdot x^2 + b \cdot x + c \quad (1)$$

## 3.2 図・表・写真について

### (1) フォント

図・表・写真に使用する文字のフォントの種類、色(黒)、および大きさ(7ポイント以上とするが、本文と同一の9ポイントが望ましい)については、執筆要領を参照すること。

### (2) タイトル

図・表・写真のタイトルおよび文章中に引用する場合のフォントは、和文で明記する場合は数字も含めてMSゴシック(図-1)とし、英文で明記する場合はTimes New Roman太文字(Fig.1)で統一すること。

### (3) 配置

図・表・写真は、本文に近いところに配置し、ページ

**図・表・写真と本文の間は1行以上あける**

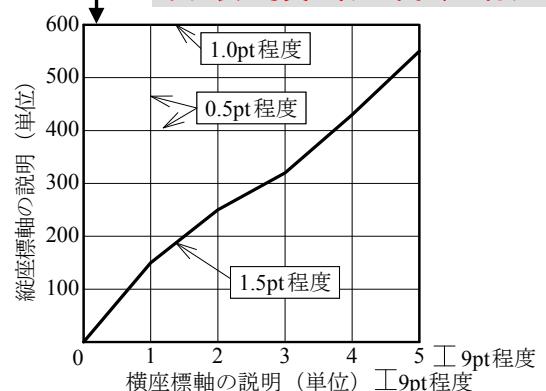


図-1 図の良い例と作図参考寸法

**実線を引く**

**和文タイトルはMSゴシック、  
英文タイトルはTimes New Romanの太字**

**下辺のマージン20mm**

表のタイトルは表の上に  
図・写真のタイトルは下に記載する

和文タイトルはゴシック,  
英語タイトルはTimes New Romanの太文字に

表-1 表の作成例

組骨材の 最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメン ト比 (%)	空気量 (%)	細骨材率 (%)	単位量 (kg/m <sup>3</sup> )				
					水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤 A
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
30	8	44	4	34	152	334	636	1214	0.834
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

図・表・写真と本文との間は、1行以上あける

幅一杯にならない図・表は右側に寄せて配置すること。

また、参考文献の後（文末）には配置しないこと。

なお、本文と区別できるように、番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行以上あけること。

欧文文献の著者名は、姓を先に記し、名はカナマの後にイニシャルで示す。著者が4名以上の場合は、筆頭著者以外を「et al.」として省略してもよい。

#### (4) 発行年月

和文文献の場合、西暦に統一して、1988.11, 1991.2のように記す。欧文文献では、Nov.1988, Feb.1991のように記す。

#### (5) インターネットの掲載

インターネットを掲載する場合は、タイトル（入手先）：URL（閲覧日：●年●月●日）のように記す。

「見出し」のみ MS ゴシック、大きさは 9pt

#### 参考文献（記載例）

- 1) 小林一輔, 魚本健人, 嶋 文雄：コンクリート混和材としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響, コンクリート工学, Vol.17, No.5, pp.87-95, 1979.5
- 2) コンクリート工学年次大会投稿画面 FAQ 参照：<http://confit-sfs.atlas.jp/customer/jci2017/web/ronbuntoko/faq.html> (閲覧日：2016年11月6日)
- 3) 岡田 清, 六車 熙編：コンクリート・ハンドブック, 朝倉書店, 1981
- 4) Malhotra, V. M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12, pp.28-31, Dec.1986
- 5) Collins, M. P. and Mitchell, D.: Shear and Torsion Design of Prestressed and Non-Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct.1980

### 章・節・項の「見出し」は MS ゴシックにする

#### 4. 参考文献について

##### 4.1 参考文献

参考文献は、入手可能な限りに限る。また、参考文献に記載した文献は、本文で必ず引用すること。

参考文献の見出しへ、「結論」あるいは「まとめ」の後に MS ゴシックの参考文献と明記し、フォントの大きさは 9 ポイントとすること。

参考とした文献名のフォントは、MS 明朝、Times New Roman とし、大きさは 9 ポイントとする。また、使用順に 1), 2) のように番号をふり、まとめて掲げること。

文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に、上付数字で<sup>1),2),3)</sup>・・・のように明記しておくこと。

参考文献は文末に記載し、左・右の段を揃えて書き終えるように原稿を作成すること。

##### 4.2 記載方法

###### (1) 論文等の場合

著者名：題名、誌名、Vol., No., 掲載ページ、発行年月の順とする。

###### (2) 単行本の場合

著(編)者名：書名、発行所名、掲載ページ、発行年月の順とする。

###### (3) 著者名

和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。著者が 5 名以上の場合には、筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよい。

- ・本文の文末は、左・右の段を出来る限り揃えて書き終える
- ・参考文献の後に、図・表・写真等を配置しない
- ・本文の長さは、5 ページ目の両段 30 行以上、6 ページ以内とする

参考とした文献名のフォントは、MS 明朝・Times New Roman、大きさは、9pt とする